

2016年参院選・論戦ニュース

日本共産党国会議員団中国ブロック事務所

2016年6月26日 No.11

安倍首相の共産党攻撃に志位委員長がズバッと反論 憲法違反の勢力に審判を

序盤の論戦で、安倍総理と志位委員長との論戦が注目されています。

その一つが、安倍首相がこの間の党首討論や福島県での第一声でも共産党への攻撃として用いた、いわゆる自衛隊問題などについてです。

6月23日の札幌での街頭演説で志位和夫委員長がきっぱりと反論しました。安倍首相の第一声と志位委員長の演説の該当部分を紹介します。

(安倍晋三首相)

共産党と民進党はそれ(安保関連法)を廃止しようとしています。それを廃止すれば、この(日米同盟の)絆は崩れてしう。もっとも共産党は、昨日も言ったように日米同盟廃止ですよ。そのみならず、あの東日本大震災での熊本地震でもがんばった自衛隊を将来、解散していく、憲法違反だ、こう昨日、ハッキリ言ったじゃありませんか。どうやって日本を守っていくんですか。あまりにも無責任であります。志位さんは憲法違反だけれども、解散するまでは仕事をしてもらう、こんな失礼な話しはないじゃないですか。君たちは憲法違反だが仕事はやれと言うことと同じじゃありませんか。これで岡田さんはじーっと黙っていた。まったくそれに対して口を開きませんでした。なぜかと言えば、いま全国で小選挙区もそうです、民進党の候補者が共産党の力を借りてたたかっている。岡田さんは、共産党とは理念も政策も違うのに候補者を一本に絞っている。これを常識では「野合」と言うんです。こんな無責任な人たちに負けるわけにはいかないじゃないですか。

この選挙、何が問われているのか、子どもたちの未来を、みなさんの安全を、このいいかげんな共産党と民進党の連合に託すのか、平和と命をしっかりと守ってきた自民党と公明党に託すのか。それを選ぶ選挙であります。さらにこの経済政策を前に進め、経済を成長させ、国民を豊かにしていくのか。あるいは、4年前に逆戻りしていまよりも中小企業が多く倒産していくあの時代に、若いみなさんががんばって、がんばって、がんばってもなかなか就職できなかったあの暗い時代に後戻りしていくのか、それを決める選挙であります。前進か、後退か、どうかみなさん、岩城光英さんと一緒に前進を勝ちとろうではありませんか。厳しい、厳しいたたかいであります。

(志位和夫委員長)

安倍首相は、「野党は安保法制の廃止を言っているけれども、そんなことやって日米同盟の絆を壊していいのか」こういうことを言い始めました。しかし私は問い返したいと思うんです。「日米同盟」の名で、日本国憲法を壊していいのか。そんな権利は誰にもないということを私は言いたいと思います。

そして、安倍さんの言う「日米同盟」とは何か。この前、日本記者クラブで討論会がありまして、安倍さんに聞きました。安倍さんは、2004年に出した本の中でこう言ってる。

「日本が攻撃されたときにアメリカの若者は血を流して戦う。しかし、いまの憲法解釈のもとでは、日本が血を流すことはないんです」。こう言って集団的自衛権の必要性を説いたんですね。その後、安倍さんはこの言葉通りに憲法解釈を変え、安保法制をつくって集団的自衛権を可能にしました。私、安倍さんに聞いたんです。あなたは「日米同盟」を「希望の同盟」と言うけれど、安保法制によって「日米同盟」は「血の同盟」になったんじゃないですか。安倍さんは答えられません。否定もできません。ここに真実があるんです。集団的自衛権というのは、アメリカのベトナム戦争やイラク戦争のような無法な戦争のときに、日本の若者を駆り立てようって話なんです。アメリカの戦争のために日本の若者の血を流せというのが、集団的自衛権にほかなりません。こんな恐ろしい道は断じて許すわけにはまいりません。

安倍首相は、きのうのテレビでも言っていました、この間の党首討論になりますと、「共産党は自衛隊が憲法違反だと言っている。こんな無責任な人たちに政治は任せられません」と、あちこちで言っています。私の名前まで出してずっと言ってる。宣伝してくれています。これにもしっかり反論しておきたいんですね。日本共産党は、自衛隊は憲法違反の組織だと思っています。しかし、これをすぐになくすという考え方はもっていません。なくすことはできません。国民の合意がない間はなくすことはできません。将来の展望として、国民の合意で憲法 9 条の完全実施に向けて一步一步進んでいくというのが、共産党の方針です。これは無責任どころか、憲法を守ることと国民の命を守ることの両方をちゃんと追及する一番責任ある態度ではないでしょうか。

そしてみなさん、この自衛隊の問題でいま問われているのは自衛隊が合憲か違憲かじゃないんです。そこに問題があるんじゃないんです。いま問われているのは、自衛隊を海外での戦争に派兵していいかどうかが問われている。「専守防衛」、この志で入隊した自衛官、あるいは被災地でがんばっている自衛官。この人たちを、海外での「殺し、殺される」戦場に送っていいかが問われているんです。ここに問題の焦点があるんです。こんなことはやってはならないということで、野党は結束しているんです。安保法制＝戦争法はきっぱり廃止するしかありません。憲法違反の暴挙をはたらいた勢力に、共産党の躍進で退場の審判を下そうではありませんか。

そして、さらに訴えたいことがあります。この間の党首討論で、もう一つ大問題が浮かび上がってきました。憲法改定の問題です。安倍首相はきのうの遊説で何か所かやったんですが、どこでも憲法のけの字も言わない。憲法隠しをずっとやっております。しかし、討論会ではそうはいかなくて、聞かれるわけですよ。なんて言うかというと、憲法を変えていくと。ただ、どの条文を変えていくかは言えませんって言うんです。私、この前の民放の党首討論会で、そんなのはだめですと、自民党は自民党改憲案というのを出してるじゃないですか。それ見ると、9 条 2 項を削除して、国防軍を書き込むと書いてある。そんなことになったら、海外での武力行使が無制限・無条件にやれるようになってしまいますね。私、安倍さんに聞きました。そう書いてあるんです。ならばあなたは、9 条に手をつけないということをここで言えますか。二つの番組で繰り返し聞いたんですが、最後まで手をつけないとは言えませんでした。みなさん、はっきりしたんじゃないでしょうか。安倍改憲の本丸は 9 条改憲です。海外で戦争する国を完成させる。ここに安倍さんの野望がある。自民党への一票は 9 条を壊す一票になってしまいます。どうかみなさん、日本共産党に躍進させていただいて、憲法 9 条を守ろうという願い、党をつくって 94 年、一筋に反戦平和をつくってきた日本共産党と森つねとさんにおよせください。どうかよろしく願いします。